

論理と情熱の国語 証拠資料の信頼性

問1 「自然エネルギー発電の可能性と問題点」について書かれた証拠資料の信頼度を比べるとき、信頼度の高低はどうなるか、信頼度の高い順に並び替えなさい。

- ア 書籍における「自然エネルギー発電」研究者の意見
- イ 新聞における科学部記者の意見
- ウ 週刊誌における理系大学出身記者の意見
- エ ブログにおける「反原発」運動に参加している会社員の意見

問2 「税金が高くなると、あまり商品を買わなくなる」という主張を強める証拠資料として、最も価値が高いと思われるものはどれか。

- ア 「税金が高くなると、あまり商品を買わなくなるだろう」という新聞の社説
- イ 「税金が高くなったら、あまり商品を買わなくなった」という他の国の事例
- ウ 「税金が高くなると、あまり商品を買わなくなるだろう」という経済学者の意見
- エ 「税金が高くなったら、あまり商品を買いたくなくなる」というアンケート結果

問3 証拠資料の信頼度を高める要素として必要な形容詞を、以下の空欄に埋めなさい。

- ・ 書かれた時期が (①)
- ・ アンケートのサンプル数が (②)
- ・ 学者の専門性が (③)

解答・解説

問1 <解答> ア→イ→ウ→エ

<解説> 「エ ブログにおける『反原発』運動に参加している会社員の意見」は、第三者の審査なく発表できる点や会社員の専門性が不明である点、さらに「ブログ」というインターネット上の媒体では、本当に本人が書いたものかの裏付けも取りにくいので、最も信頼度は低い。

「ウ 週刊誌における理系大学出身記者の意見」は、刊行物である点で「ブログ」より信頼度は高いものの、「週刊誌」の社会的信用性が新聞に比べると劣る点、さらに「理系大学出身記者」という点だけでは「自然エネルギー発電」についての専門性が担保されない。

「イ 新聞における科学部記者の意見」は、「新聞」に対する社会的信用性の高さ、及び「科学部記者」という点である程度の専門性は示されると考えられ、証拠資料としては一定の効力は有すると考えていいだろう。ただ、「ア 書籍における『自然エネルギー発電』研究者の意見」と比較すると、個人の責任が直接問われる「書籍」として刊行され、かつ著者が「『自然エネルギー発電』研究者」である以上、「科学部記者」よりも「自然エネルギー発電」分野に対する専門性は高いと考えられるため、信頼度としては2番目と考えるのが適当であろう。

問2 <解答> エ

<解説> 一般人に対する「アンケート結果」の信頼性は通常高いものではないのだが、実際に「税金が高くなると、あまり商品を買わなくなる」かどうかは、消費者の動向に左右されるため、「税金が高くなると、あまり商品を買わなくなる」という主張を強める証拠資料としては、最も価値が高いと言っていい。

「新聞の社説」「経済学者の意見」も悪くはないのだが、推測的な言い回しとなっている点が減点材料となる。また、「他の国の事例」は、果たして自国と同様の政治経済体制かどうか判断できず、参考にできるとは言い切れない。

問2 <解答例> ① 新しい ② 多い ③ 高い

<解説> 資料が記された時期が古いと、現状と適合しない場合があるため、少しでも「新しい」方がよい。アンケートのサンプル数は、少ないと偏りの強い結果となる危険性が高いため、少しでも多い方がよい。勿論、学者の専門性は高いに越したことはなく、政治分野に対する経済学者の意見などは信頼度が下がるので注意したい。